幼稚園教育の重要性

埼玉大学　大友　秀明

はじめに

令和３（2021）年４月に埼玉大学を定年退職します。これを機に今までの自分の大学生活を振り返ってみました。

大学生活の最大の試練は附属幼稚園長の就任です。平成26年４月から３年間務めました。自分のペースで「わがままに」教育・研究活動をしていた身に，さまざまな「拘束」が付きまといました。慣れるまでに時間がかかりました。

しかし，今振り返ると，園の活動に充実感を味わうことができました。今では，貴重な機会を与えてくださった方々に感謝しています。

ここでは，園長になって感じたことや幼稚園教育の重要性ついて，若干述べたいと思います。

1．附属幼稚園について

まずは，幼児・幼稚園の教育に関して様々な議論があることを知りました。埼玉県の教育振興計画の施策の一つに「幼児教育の推進」が提案されています。そこでは，幼保一元化，認定子ども園の普及・設置，幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続などが取り上げられています。また，幼稚園教育の無償化や義務化なども取りざたされています。このような動きへの対応が今後，問われることになるでしょう。

つぎに，附属幼稚園の存在が大きいということです。80余年の歴史がありますから，卒園者は保護者にもいますし，近隣にもお住まいです。附属幼稚園の教育に対する期待が大きいことを実感しました。園長の初年度に園の情報，保育や研究の内容を発信すべくホームページをリニューアルしました。ご期待に応えるように努めなくてはならないと感じました。

また，保護者の皆様には，幼稚園の教育活動に積極的かつ協力的に参加していただき，感謝するばかりでした。朝の清掃活動や「おやじの会」の活動により，保育環境が整えられ，子どもたちが清々しい気持ちで生活することができています。親子レクや附属特別支援学校への親子遠足などの行事も催していただき，親子や友達が楽しさを分かちあうことができました。

最後に一言。私自身，幼稚園の日々の教育・保育，子ども会や遠足などの行事を通して，子どもたちとの「かかわり」を愉しみました。幼稚園の使命は，子どもたちを安全に保育・教育し，人間形成の基盤づくりにあります。附属幼稚園の教員は，子どもを中心にした教育活動を実践していました。

以下に，附属幼稚園の『研究紀要』に執筆した「はじめに」の部分を掲載します。

２．質の高い保育

平成26年11月に，文部科学大臣が「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」中央教育審議会に諮問しました。今後，答申を受けて，『幼稚園教育要領』が改訂され，平成30年からの実施が予定されています。

また，埼玉県の教育振興基本計画の施策の一つに「幼児教育の推進」が提案されています。そこでは，「生きる力」の基礎を育む幼児教育の推進，幼稚園教員や保育士の資質能力の向上，認定子ども園の普及・促進，幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続，幼稚園・保育所などを活用した子育て支援の充実が施策として取り上げられています。

幼児教育は，生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な役割があります。その役割を担うためには，幼稚園の教員は，専門職としての自負と自覚をもち，幼児教育の質を高めていく研究や研修を積極的に行う必要があります。

教育学部附属幼稚園としての本園の使命の一つに，幼児教育の研究があります。本園の平成25・26年度の研究テーマは「質の高い保育とは何かを問い直す」です。１年次の研究では，「教職員相互の保育『観』と『勘』の共有を通して」をサブテーマに，「教職員集団としての質」の高さをめざし，共に保育を語り，互いに高め合う教師集団となるよう教職員間の同僚

性・関係性を高めることに着目しました。

２年次の研究では,「体験の多様性と関連性の視点から」をサブテーマに, 子どもが日々の活動や遊びの中で体験・経験し, 学んでいることを見取り, 子どもの育ちを最大限に引き出す指導性に着目しました。

このように, まずは「教職員集団としての質」を向上させることによって保育の質が高まると考え, 実践研究を行いました。つぎに, 子どもにとって意味ある体験とは何かを課題にし, 意味ある体験のための教師の援助や環境構成を追究し, 質の高い保育を目指しました。２年間の研究の成果を踏まえ, 今後は, 目指す子ども像, 教育目標, 保育内容など, 教育課程の見直しを図りたいと考えております。

本紀要は, ２年間の研究のまとめです。まだまだ不十分な内容ですが, 本研究が, 幼稚園の質の高い保育の発展に寄与できればと願っております。(平成27年３月)

３．教育課程の見直し

我が国の教育の姿が大きく変わろうとしています。幼児教育についても活発に議論がされています。

現行の学校教育法では, 幼稚園は「義務教育及びその後の教育の基礎を培うもの」であると明記されています。また, 平成27年４月には, すべての子どもに質の高い幼児教育を提供することを目指して,「子ども・子育て支援新制度」がスタートしました。幼稚園だけではなく, 保育所, 認定こども園などによる幼児教育の重要性への認識が高まっています。

また, 文部科学省は,「幼児期の教育が生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることに鑑み」, ①幼児教育の段階的無償化に向けた取組の推進, ②幼児教育の質の向上, ③幼児教育の環境整備の促進を通して,「幼児教育の振興」を図る政策を立案しています。

このように幼児教育の重要性への認識の高まりや, 質の高い幼児教育の推進が求められる中で, 教育学部附属幼稚園の使命の一つである研究活動とその成果の発信が社会から期待されています。

本園の研究テーマは「質の高い保育とは何かを問い直す」です。今年度は３年次に当たり, 副題に「教育課程を見直す」としました。１年次の研究では,「教職員相互の保育『観』と『勘』の共有を通して」をサブテーマに, 教職員間の同僚性・関係性を高めることを目指しました。２年次の研究では,「体験の多様性と関連性の視点から」をサブテーマに, 子どもの育ちを最大限に引き出す指導性に着目しました。

このように, まずは,「教職員集団としての質」を向上させることによって, つぎに, 子どもにとって意味ある体験のための教師の援助や環境構成を追究することによって,「質の高い保育」を問い直しました。今年度は, ２年間の研究の成果を踏まえ, 目指す子ども像, 教育目標, 保育内容など, 教育課程の見直しを図りました。

周知の通り, 現在, 中央教育審議会の幼児教育部会において, 幼稚園教育要領の改訂に向け, 幼児期において育みたい資質・能力や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化を図るための検討が行われています。平成30年度に幼稚園教育要領の改訂が予定されていますが, その新しい幼稚園要領の趣旨を捉え, 再度, 教育課程に反映させていきたいと考えています。次年度のテーマは,「教育課程の具体化に向けて（１年次）－子どもの『かしこさ』を育てる保育－」です。

なお, 本冊子は, ３年間の研究「質の高い保育とは何かを問い直す」のまとめであると同時に, 長年蓄積された園文化に基づく実践資料にもなっています。

本冊子の内容は, まだまだ検討の余地がありますが, 幼稚園の質の高い保育の発展に少しでも寄与できればと願っております。(平成28年３月)

４．教育課程の具体化

現在の日本は「教育改革の時代」にあります。大学, 大学院を含めて, 学校教育全般の在り方が議論されています。幼稚園教育, 幼児教育も例外ではありません。平成28年12月, 中央教育審議会は『幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』をまとめました。そこでは, 幼児教育について, 概ね, 下記のように指摘されています。

①幼児教育で育みたい資質・能力として,「知識・技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力, 人間性等」の三つを, 現行の幼稚園教育要領等の５領域（「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」）を踏まえて, 遊びを通しての総合的な指導により一体的に育むこと。

②５歳児修了時までに育ってほしい具体的な姿（「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量・図形, 文字等への関心・感覚」「言葉による

伝え合い」「豊かな感性と表現」）を明確にし，幼児教育の学びの成果が小学校と共有されるよう工夫・改善を行うこと。

③自己制御や自尊心などのいわゆる「非認知的能力」の育成など，現代的な課題を踏まえた教育内容の見直しを図ること。

この答申を受けて，『幼稚園教育要領』は改訂され，平成30年度から実施される予定です。国立大学附属幼稚園には，新教育要領の理念の実現に向けた研究が期待されています。附属幼稚園の使命の一つが，幼児教育の質の向上に貢献することです。そのためには，園内で研究を行い，その成果を発信する必要があります。

今まで，附属幼稚園では，子どもの遊び，生活，環境を通した教育を大切にし，実践してきました。現在，その質の高い実践を基盤にしたうえで，幼児教育の質を評価する指標などの具体的な調査研究が要請されています。しかも，「エビデンス」（根拠・証拠）に基づいて応えなければなりません。それは，限られた財源の中から幼児教育への財政・予算を確保するためには，誰もが納得できる実証的な根拠が求められているからです。

本園では，昨年度，目指す子ども像，教育目標，保育内容など教育課程の見直しを図りました。それを受けて，今年度から３年間の研究テーマを「教育課程の具現化に向けて」と設定しました。具体的目標である子どもの「やさしさ」「かしこさ」「たくましさ」について，幼児の姿から検討することにしました。

今年度は，子どもの「かしこさ」を育てるための環境構成や援助の在り方を探りました。子どもの姿から「かしこさ」を育てる保育の具体的な事例研究が，質の高い幼児教育の発展に少しでも寄与できればと願っております。（平成29年3月）

おわりに

以上のように附属幼稚園長になり，幼稚園教育の改革動向，附属幼稚園の研究テーマについて学ぶことができました。また，幼稚園教育の重要性を再確認することができました。

今回の学習指導要領では，学校教育の三つの基本的な目標（「資質・能力」）の基礎を幼稚園教育が培うことが期待されています。幼稚園教育が小学校教育の準備教育としての受け皿なってしまう危惧があります。幼児期の子どもの成長にとって何が中心になるべき活動なのか，その独自性を見極める必要があります。

なお，園長としての活動の一端を拙稿「協働による幼稚園の環境整備の意義」（『埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター紀要』第16号，2017年）にまとめました。埼玉大学図書館の学術情報リポジトリ（SUCRA）から閲覧できます。